令和３年度　山口大学教育学部附属光学園（光小学校）学校評価書　（校長　森本　忠寿）

1　学校教育目標

【教育目標】
広い視野をもち，未来の社会をたくましく切り拓く人間の育成
【目指す子ども像】
本質を見極めようとする子（ねばり強く考える子）　多様性を尊重し，協働できる子（自他を大切にできる子）　社会との絆を深める子（地域に愛される子）

2　現状分析（前年度の評価と課題を踏まえて）

⑴ 学力の向上
小中９年間を貫く「主体的・対話的で深い学び」の具体的な授業づくりが進められた。本年度は，GIGAスクール構想の実現に向けた１人１台端末の活用を基盤にした授業づくりがすべての学校現場において求められており，主体的に取り組める家庭学習の改善と併せ，新しい学びの在り方を具現化することが課題である。

⑵ 心の教育の推進
子どもの自己肯定感は概ね高く維持されていたが，互いの人権に関わるトラブルも散見された。多様性の尊重と協働の心の醸成を一層進めていくことと，ネットモラル等の一人一台端末の利用に対応した新たな取組の創出が課題である。

⑶ 健康・安全と体力の向上
インターネットの利用等にかかわる生活リズムの乱れや体調不良について，家庭への啓発の強化が不十分であった。学校外のリソースを活用した新たな取組を通して，家庭と連携した心身の健康づくりを一層推進していくことが課題である。

⑷ 学部・保護者・地域との連携の強化
学部との連携については，オンラインの活用等により，小中ともに新たな教育活動が進められた。GIGAスクール構想の下で，一層の充実を図っていくことが課題である。
メール配信・web による保護者への情報発信に努めてきた。デジタルデータによる双方向性のある家庭との連携のあり方を構築していくことが課題である。
地域連携では，教職員との熟議を通したプロジェクト実現の可能性が生まれた。学校運営協議会・教職員・保護者の協働によるプロジェクトと，学校運営への子どもの参画についての具体的な取組の実現が課題である。

⑸ 業務改善の推進
時間外在校時間の縮減については一定の成果が見られた。GIGAスクール構想の下での業務のスマート化の一層の推進が課題である。

3　本年度重点を置いてめざす成果・特色，取り組むべき課題

○ 子ども自身がもつ問いと，連続性･発展性のある学びを具現化する小中一貫教育の推進。【知性】
○ 地域とのつながりの中で，自己肯定感を高め，所属感が実感できる豊かな心の醸成。【自己】
○ 目指す子ども像の実現に向け，地域とともに学校課題の改善に邁進できる開かれた学校づくり。【共生】

4　自己評価　／　5　学校関係者評価

評価領域	重点目標	課題解決に向けての取組（具体的方策）	評価基準	達成度	達成状況の診断・分析	取組状況に関する意見・要望等	評価
学力の向上	思考力・判断力・表現力を確かなものにする学びの推進 （情報端末活用）	○ 主体的・対話的で深い学びについての実践の充実と情報発信 ○ 子どもに育む資質・能力に特化したカリキュラムの深化充実 ○ 個の特性に応じた指導改善	子ども・保護者アンケート（授業関連）の肯定的な回答 4（95%以上），3（90%以上），2（85%以上），1（85%未満）	4	〈児童 96.5%、保護者 95.3%〉 ・昨年度同様，児童・保護者ともに高い評価であった。教職員評価も良好であり、授業に対する三者間の意識が、大変理想的につながっていると言える。一層の授業研究・改善に努める。	・学習への取組を，児童も保護者も大変肯定的に受け止めていることが伺える。非常に理想的である。	4
	自ら学び続けることのできる家庭学習の在り方についての提案と実践 （情報端末活用）	○ 各学年の課題に応じた家庭学習方法の実践と検証 ○ 子どもに育む資質・能力に応じた家庭学習方法の実践と検証	保護者アンケート（家庭学習・学力）の肯定的回答 4（80%以上），3（75%以上），2（70%以上），1（70%未満）	2	〈保護者 72.1%〉 ・保護者アンケートには，家庭におけるタブレット端末の活用法を教えてほしいとの記載があった。家庭学習の手引きと併せて推進を図りたい。	・児童によって発達段階も違うため課題の在り方については難しい面はある。端末を活用した課題を考案する。	2
心の教育の推進	自他を大切にできる受容的な集団の醸成	○ 道徳科の授業づくりを通した，子どもの変容の見取りと評価 ○ 学校行事への主体的な取組を通した集団づくり	子ども・保護者・教職員アンケート（道徳科）の肯定的回答 4（95%以上），3（90%以上），2（85%以上），1（85%未満）	3	〈児童 87.0%保護者 92.6%教職員 95.5%〉 ・昨年度に比べて，保護者評価が上がり三者とも 90%を超える結果であったことは成果といえる。	・道徳について，附属校の研究成果・実績はある。その取組を，しっかりと発信していくべきである。	4
	集団意識を基盤とし，自治と誇りを基軸としたマナーアップ	○ 登下校中や公共の場での態度の価値付けを通した，望ましい集団づくり ○ 子どもの自治的な工夫・改善を通した主体的な取組の推進	子ども・保護者・教職員アンケート（規範）の肯定的回答 4（90%以上），3（85%以上），2（80%以上），1（80%未満）	4	〈児童 93.5%保護者 91.7%教職員 90.9%〉 ・良好な結果である。課題であった“進んであいさつができる”の項目について、保護者・教職員評価が上がったのはよかった。来年度も，一層生徒指導の充実を図りたい。	・集団の質が一層向上するよう，日々の指導をおろそかにせず継続していくことが重要である。	4
健康・安全と体力の向上	自らの生活の課題を意識し，工夫しようとする意欲・態度の育成	○ 本校の実態に即した，早寝・早起き・朝ご飯の啓発，食育指導，保健指導，ネット利用の指導を通した，健康的な生活習慣や態度の育成	子ども・保護者アンケート（生活）の肯定的回答 4（80%以上），3（75%以上），2（70%以上），1（70%未満）	3	〈児童 75.5%、保護者 76.9%〉 ・児童・保護者ともほぼ同様の結果となった。しかし，それは 8 割を下回るものであり，決して満足できるものでもない。保健安全部に具体的な取組を講じさせる。	・家庭への意識啓発をいかに講じていくべきかを模索する。	3
	安全に楽しく運動を楽しめる資質･能力の向上	○ 運動場面を捉えた具体的な安全指導の充実 ○ 体育科の授業や家庭生活での実践を通した柔軟性の向上	校内・校外での骨折 4（ 5 件以下），3（10 件以下），2（15 件以下），1（16 件以上）	4	〈今年度骨折件数:3 件〉 ・昨年度より，件数が 2 件減った。低学年を中心に柔軟性の高い児童も見受けるようになった。来年度も、継続して指導する予定である。	・できる時間で運動をしっかり行う。上欄とも関係するが，体力を使うと早寝にもつながるのではないだろうか。	4
学部・保護者・地域との連携	学校と学部との連携を密にした教育研究の推進	○ 9年間を見通した定期的な情報提供及び教育実践研究サイクルの構築	教職員アンケート（学部連携）の肯定的回答 4（90%以上），3（85%以上），2（80%以上），1（80%未満）	3	〈教職員 86.4%〉 ・前期末評価から若干数値が落ちた。年度始め、指導案検討の際には大学とのかかわりの頻度が高かった。年間を通して指導助言を仰げるよう、研究部を中心に教員の意識啓発に当りたい。	・個人ではなく，組織でまとまって大学との研修の場を設けると，研究推進の加速化につながるのではないか。	3
	学校と保護者，保護者と保護者のネットワークづくり	○ 学校 web ページを活用した各種情報発信の充実 ○ 非常変災等，学校の危機管理に関する共通理解と訓練の充実 ○ PTA，おやじの会への参加を通した保護者同士の絆づくり	保護者アンケート（PTA 等） 4（85%以上），3（80%以上），2（75%以上），1（75%未満）	2	〈保護者 75.2%〉 ・コロナ禍において、“保護者同士のつながり”や“PTA 活動への参加”の項目が伸びなかった。来年度は保護者来校ができるよう、工夫や対策を講じたい。	・コロナ禍により数値が下がってしまうのは仕方がない面がある。	2
	附属学校の特性を生かした地域とともにある学校づくり	○ 学校運営協議会，子どもとの熟議を通したCSの充実 ○ 附属学校の特性を生かしたCS機能の強化	4（子どもが参画した地域との取組），3（子どもが参画した学校運営協議会との活動），2（学校運営協議会の提案による新たな取組），1（学校運営協議会での熟議）	1	・昨年度に引き続き，委員の方と小中全教員による熟議を行えた。コロナ禍ではあるが，開催方法を模索し，活動が途絶えることがないようにしたい。	・学校運営協議会事態の開催や予定は変更になったものの，地域行事への参画の機会が増やせたことは有意義であった。	2
業務改善	業務の見直しと効率化を通した働き方の改善	○ 限られた時間内での子どもと向き合う時間の質の向上 ○ 小中の同僚性の向上，組織内ネットワークの強化による業務の効率化	時間外労働時間の平均 4（42 時間未満），3（47 時間未満），2（52 時間未満），1（52 時間以上）	2	〈時間外労働時間年間平均 50.8 時間〉 ・前期 50.2 時間、後期 51.4 時間であった。校務分掌の活性化、会議の一層の効率化、小中それぞれの行事や特別活動の見直し、精選などを図る。	・評価基準の見直しを図ってはどうだろうか。週 42 時間未満という数値は厳しいように感じる。	2

5　学校評価の総括（取組の成果・次年度への改善策）

〈取組の成果〉
・全般的に、児童の多くが授業に対して前向きに取り組んでおり、活発な意見交換や発表を行っている。運動会や附小祭などの学校行事では、コロナ感染状況に応じて参集またオンライン方式で実施することとなった。参集方式の行事には，たくさんの保護者が来校しており、教育活動の様子を紹介することができた。
・あいさつへの肯定的評価が，保護者・教職員ともに上がった。

〈次年度への改善策〉
・各校務分掌の有機的なつながりと活性化を図り、児童の日常の学校生活（授業、あいさつなどの心の教育、集団づくりなど）をさらに向上させる体制を構築する。
・コロナ禍における行事や PTA 活動の在り方を一層模索し，保護者間のつながりを広げる方策を講じる。
・小中一貫校として、小中行事の見直しや精選、実施期日等のすり合わせなどを行い、子どもにとってより有益となる教育活動にするとともに教職員の業務改善にもつなげる。